

臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)

必修 2単位

大塚 秀実

1. 授業の概要(ねらい)

心理的アセスメントは、心理臨床の根幹を成すものである。心理療法を希望して訪れた対象者に対して、すぐに心理療法を提供することはできない。対象者がどのようなことを求め、どのようなパーソナリティなのか、そして、どのような援助をすればそれが達成できるのか、という見立て(心理的アセスメント)をすることによって、ようやく援助の方針が決まるのである。

心理的アセスメントは、心理検査のみならず、行動観察や臨床面接、生理的指標など多様な方法で測定される。臨床現場に持ち込まれる問題は、目に見える問題も目に見えない問題もあり、様々な方法を知ることが求められる。

公認心理師として臨床心理士として、心理的アセスメントの知識・技法を学び、基本的な臨床態度を身につけることを目指す。

なお、心理臨床センターにおける検査施行にあたっては、この科目の履習が必要となる。

2. 授業の到達目標

心理的アセスメントの基本となる知識・技法・倫理態度を身につけることを目的とする。

3. 成績評価の方法および基準

成績評価は、授業への積極的姿勢(20%)、課題提出(60%)、試験(20%)とする。

臨床倫理(守秘義務など)を犯した場合には単位取得はない。

4. 教科書・参考文献

参考文献

近藤直司(2014) アセスメント技術を深めるハンドブック 明石書店

津川律子(2018) 面接技術としての心理アセスメント 金剛出版

高橋依子・津川律子(2015) 臨床心理検査バッテリーの実際 遠見書房

モニカ・マクゴールドリック(2018) ジェノグラム:家族のアセスメントと介入 金剛出版

竹内健児(2016) 心理検査を支援に繋ぐフィードバック事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方[第2集]

金剛出版

5. 準備学修の内容

ボランティア学生への検査・結果のフィードバックを実施するため、事前にマニュアルを熟読し、十分に練習しておくこと
実施できない場合には、ロールプレイで代替することとする

6. その他履修上の注意事項

・実際に心理検査を実施するため、事前準備をすること

・臨床実践に関する倫理を学び、身につけること

この科目は、公認心理師試験受験資格を得るために必要な科目である。

この科目は、臨床心理学専攻に特化した科目である。

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンス:心理アセスメントの必要性について学ぶ

【第2回】 心理的アセスメントの倫理について学ぶ

【第3回】 知能検査(WAIS-IV)の理論・実施法について学ぶ①

【第4回】 知能検査(WAIS-IV)の理論・実施法について学ぶ②

【第5回】 知能検査(WAIS-IV)の報告書作成・検査のフィードバックについて学ぶ

【第6回】 心理的アセスメント面接をするために必要なことを学ぶ(オンライン)

臨床家としてどのような知識・倫理観・態度が求められるのか?

【第7回】 心理的アセスメントの実践について学ぶ

モチベーション・認知機能・病態水準・生活様式・対人関係のありかた、家族について学ぶ

【第8回】 内田クレペリンの理論・実施法について学ぶ

【第9回】 長谷川式簡易評価知能スケールについて学ぶ

【第10回】 認知症検査について学ぶ

【第11回】 心理検査結果・フィードバックについての検討会①

【第12回】 心理検査結果・フィードバックについての検討会②

【第13回】 心理検査結果・フィードバックについての検討会③

【第14回】 試験実施とまとめ

【第15回】 試験講評・フィードバック